

## 第22回 FD フォーラム実施報告

令和2年11月7日（土）、「コロナ禍における教育の質保証」をテーマとして、FDフォーラムをリアルタイムでオンラインにより開催しました。講演概要は以下のとおりです。

### 講演1. 「コロナ禍における教育の質保証－教学マネジメント指針を踏まえて－」

立命館大学 教育開発推進機構 沖 裕貴 教授

令和2年1月22日の第152回大学分科会において、「教学マネジメント指針」が取りまとめられた。これは、3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現を図るため、教学マネジメントの確立に向けた取り組みを促すものである。

3つのポリシーのうち、特にディプロマポリシーにおいては、達成度を測る仕組みが必要であり、観点別教育目標が有効である。観点別教育目標は、目標領域・目標類型に沿って教育目標を記述したものである。

成績評価はルーブリックが効果的である。ルーブリックは、評価内容を明確にするツールであるため、学生の授業への関与及び公平性に対する認識を促し、クリティカルな思考を支援する。

コロナ禍における教育の実情として、授業外学習時間の増大、ブレンディッド・ラーニングの可能性、Webで広がる新たなコミュニティの形成の可能性などがある一方で、学生の負担感の増大、成績評価の方法の変化などの課題もある。

### 講演2. 「遠隔教育と教育の質向上のためのアプローチ－WebClassを題材に－」

東京学芸大学 ICTセンター 森本 康彦 教授

教育の質保証には、大きく二つある。1つは教育プログラムの質保証、2つ目は学生の学修成果（アウトカムズ）による質保証であり、今回は後者について扱う。

そもそも「学ぶ」ということは、ただ暗記するのではなく、自ら考え、気づくことである。そのためには、講義を聞くだけの受動的な学びから、学習者による能動的な学びへ転換する必要がある。そのツールとして学びのポートフォリオが非常に有効である。

ポートフォリオ作成にあたり、持ち運びやすさや編集、音声や動画も使用できる点からデジタルが有効であり、これらを可能にしたものが「e-ポートフォリオ」である。

学生の相互評価は重要であり、教わるより教えるほうが学修効果は高い。また学びの振り返りも重要であり、これらは、「e-ポートフォリオ」の機能により、実現が可能である。機能が教育方法と適合しているか否かが、学修効果に影響するため、今回の新型コロナによる経験を通して、「e-ポートフォリオ」の重要性が高まっている。